

奈良県下市町の10年イキイキ事業

「らくらく」で、プラス10年イキイキ元気！これは奈良県下市町が取り組む事業のコンセプトである。下市町は県のほぼ中央に位置し、人口約7000人、町の8割が森林で全体に急峻な地域である。主な産業は柿を中心とする果樹農業や木工品製造。しかし、高齢化や過疎化により、急傾斜な柿畑での営農を諦める農家が増えているという。

そこで、高齢で農業を諦めようとしている営農者が、さらに10年現役を続けられるようにすることを目標とする「らくらく事業」が始められた。明解な目標は具体的な活動の展開を導く。住民の継続的な居住や営農の可能性を探る「集落点検」。身体的負担の少ない「ら



奈良県下市町のらくらく号

くらく農法」への転換。急峻な地形での運搬を可能にする「電動運搬車らくらく号」の実証。そして死ぬまで元気であるための「からだ点検とらくらく体操」の導入。「らくらく農法」の核は、果実から柿葉へと軽量の農作物生産への転換だ。県特産の「柿の葉すし」を生産販売する企業との連携で販路確保を図っている。既に柿葉の農事組合法人が立ち上がり、生産販売の拡大が見込まれている。また「らくらく号」は、県内メーカーと奈良高専が共同で開発した電動運搬車で、導入実証での評価が高く本格導入も進みつつある。

実はこうした取り組みは、奈良女子大の教員と県農業研究開発センターの研究員によるコミュニティデザイン研究に地元農家、行政、企業が参画することで展開していったものだ。正に「よそ者、ばか者、若者」が良い意味での攪乱要因となり、未来を拓く地域の力を引き出した好例といえる。農法だけでなく、長寿を楽しむ農村モデルとしての発展にも期待したい。